

## 板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

### 1 受付場所別の内訳

受付場所	令和3年度	令和4年度
虐待防止センター	23	17
福祉事務所（3ヶ所）	6	6
健康福祉センター（5ヶ所）	3	2
障がい政策課	12	20
夜間等相談窓口	—	7
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	0	0
合 計	44	52

### 2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和3年度	令和4年度
障がい者本人	13	11
家族・親族	3	1
近隣住民・知人	3	2
福祉サービス関係者	17	24
医療関係者	2	2
行政・教育機関	4	8
その他（労働局、警察、元支援員等）	2	4
合 計	44	52

その他の内訳・・・警察 1件、職場の同僚 1件、議員 1件、匿名 1件  
元職員 2件

### 3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
人数	11	12	23	25	17	17	0	4

### 4 虐待種別の内訳

※重複する場合はそれぞれに計上

種別	身体的		性的		心理的		放棄・放置		経済的	
年度	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
件数	13	14	3	4	20	26	6	7	5	15

## 5 虐待者の内訳と虐待認定件数

虐待者	令和3年度		令和4年度	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	24	6	23	7
障害者福祉 施設従事者等	13	1	23	3
使用者	1	0	3	2
その他	6		3	
合 計	44	7	52	12

6 令和4年度に受け付けた通報・相談のうち、虐待認定したケース事例を抽出（虐待程度については、「資料4-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	社会福祉施設従事者	心理的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人が新型コロナウイルスに罹患し、呼吸が苦しくなったため CT を撮影した。病状が気になった本人が施設職員に CT の結果を尋ねたところ、「今夜がヤマだね」と言われた。</li> <li>・ 散髪した本人に対して同職員が「つるっぽげになったね」と発言した。</li> <li>・ 本人が持っていたタオルを指して同職員が「ぞうきん」と発言した。</li> </ul>	<p>【緊急性：無し】</p> <p>施設入所により日常生活の安全は保障されており、生命の危機に及ぶ状況ではないことから緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：有り】</p> <p>本人が職員の発言により心理的外傷を負ったこと、職員が発言を認めたことから、心理的虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：軽度】</p> <p>職員の発言により気分が落ち込むことがあるが、無気力や自暴自棄といった症状はないため、軽度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設に対し、障がい者虐待防止に関する管理体制、虐待防止研修の内容、職員への意識啓発の改善計画を求めた。</li> <li>・ 施設としては、虐待者を本人の担当から外し、利用者と関わらない部署へ異動させた。</li> </ul>
2	使用者	経済的	<p>知的障がい者の雇用にあたり、最低賃金減額特例許可の更新手続きが漏れており、最低賃金以下の給与が支払われていた。</p>	<p>【緊急性：無し】</p> <p>最低賃金以下ではあるが、給与は支払われており、日常生活が維持されていることから、生命の危機に及ぶ状況ではないため、緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：有り】</p> <p>最低賃金以下の賃金で雇用していたため、経済的虐待有りとした。</p> <p>【虐待程度：軽度～中程度】</p> <p>賃金の支払いが全くなかった状況ではなく、家賃、公共料金等の支払い遅延といった状況までは確認できていないため、軽度～中程度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働基準監督署より、企業に対して是正勧告、監督を行った。</li> </ul>

7 令和4年度に受け付けた通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例を抽出（虐待程度については、「資料4-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	心理的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3, 4 年前から、母親が自分の食事だけ作ってくれなくなった。</li> <li>・ コロナ禍になってから、自宅に軟禁状態だった。</li> <li>・ 弟から「殴るぞ」と脅される。</li> </ul>	<p>【緊急性：有り】</p> <p>食事の提供がないこと、暴力を受けている可能性があり、安否確認を早急に行う必要があることから、緊急性有りとした。</p> <p>【虐待認定：判断しない】</p> <p>本人から、家族への聞き取りは行わないでほしいという強い要望と、自宅を出て生活したいとの意向があり、グループホーム等への入居支援を優先し対応することとし、虐待判断は行わなかった。</p> <p>【対応】</p> <p>所管の福祉事務所と連携し、グループホームの入居に向けて支援体制を整えた。</p>
2	社会福祉施設 従事者	放棄・放置	グループホームにて提供される食事の量が少ない。1 か月あたりの食費について、徴収額と支出額に差がある。	<p>【緊急性：無し】</p> <p>本人の生命の安全性は確保されているため、緊急性無しと判断。</p> <p>【虐待認定：不適切支援】</p> <p>調査において、運営や報酬に関して、明らかな基準違反は発見されなかったため、不適切支援と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>グループホームの指導を管轄している自治体宛てに、食材料費の受領を適正に行うこと、支援体制の改善勧告を依頼した。</p>